

障がい者のスポーツとは？

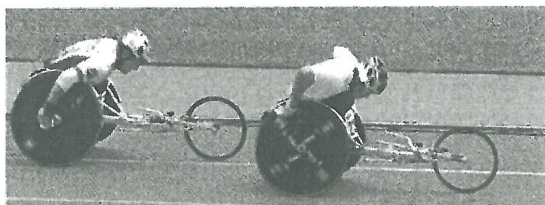
萩 莊 則 幸

一般的に「障がい者のスポーツ」は「リハビリテーションの手段」と考えられてきている。

歴史的には、1945年イギリス、ロンドンのストーク・マンデビル病院のロードヴィッヒ・グットマン卿が、脊髄損傷患者のリハビリテーションにスポーツを取り入れた。グットマン博士は、国立脊髄損傷病棟の責任者として急性期処置からリハビリテーション訓練まで手がけ、その一環として車いすスポーツを取り入れ、1949年に国際車いす競技大会を開催した。その後毎年現在まで、国際ストークマンデビル競技大会として継続されてきている。

グットマン博士は、「スポーツは、健常者よりもむしろ重度障がい者にとって重要である。スポーツは治療上、非常に大きな価値を持っており、身体的、精神的、そして社会的リハビリテーションも重要な役割を果たしている。」と述べている。

その後、1960年にローマオリンピックの後に障がい者スポーツ競技大会が開催され、1964年に東京オリンピックの後で初めてParalympicと呼称された。現在“Para”は“もう1つ”のオリンピックという意味で使われている。日本では、1998年の長野・冬季パラリンピック以後、国内の関心が高まった。また、2000年シドニーオリンピックにてIOCサラマンチ会長がパラリンピックへの支援を打ち出したことにより、オリンピック招致にパラリンピック開催が義務づけられ、オリンピック組織委員会がパラリンピックを開催することになり次回2010年のバンクーバ冬季大会より名称が、オリンピック・パラリンピック組織委員会となる予定である。ちなみに2008年北京パラリンピック競技大会（2008年9月6日～9月17日）には約170か国より約6,000人の参加者（日本:270名）が予定され、20の競技で472種目が実施される。



もし2016年の夏季大会が東京に決まると（2009年10月に選定）ますます障がい者スポーツは注目され国内で競技スポーツとしての地位が高まると考えられる。

この他に知的障がい者のスポーツ大会としては、アメリカのワシントンに本部がある民間団体による自主的大会として、アメリカを中心として発達してきたスペシャルオリンピック（SO）が1979年より開催されている。これは、世界の人口の2～3%（約1.7億人）を占める知的発達障がい者の尊厳や能力を評価すべきとアメリカの故ケネディ大統領の妹で知的障がいを持ったローズ・マリーのために彼女の父親と三女のユニス・シュライバー氏が基礎を築いた。1963年、ユニスは知的障がいのある姉のために自宅の庭を開放して「デイキャンプ」を催したのが始まりであった。この「デイキャンプ」が1968年に「SO国際大会」としてスタートした。日本での第1回大会は1981年10月であり、アジアで初の世界大会「スペシャルオリンピック（SO）冬季世界大会」がNPO法人「SO日本」により2005年2月26日長野県で開催された。世界86か国から約2,700人の選手が参加し、知的障がい者の自立と社会参加をスポーツを通じて促進し、さらに彼らが「昨日の自分を超越する自分に挑戦」という目標のもとに行われている（オリンピックスの「ス」はこの活動がスポーツの大会だけでなく、世界中のあ

らゆる地域での活動も指している)。

日本国内での障がい者スポーツの推移は1951年東京都で身体障がい者のスポーツ大会が開催された。また1960年大分県で車いすバスケットボール等が紹介され全国に広がるきっかけを作った。その後、前述の1964年の東京オリンピックの後のパラリンピックの開催につながり、さらにこの大会を契機に1965年の岐阜国体の後に開催された第1回全国身体障害者スポーツ大会に身体障がい者スポーツ大会は引き継がれた。

以後、毎年、秋季国体のあとに同じ施設、スタッフで開催されるようになり1998年の長野パラリンピックの成功を受け、2001年、宮城国体後の大会からは、全国知的障害者スポーツ大会も合併され「全国障害者スポーツ大会」になった(知的障がい者のスポーツ大会である、「ゆうあいピック全国大会」は「国連障害者の10年」の最終年の1992年に東京都で第1回大会が開催され、以後、毎年開催されてきた)。

国が示した計画のなかでも1993年(平成5年)に制定された「障害者対策に関する長期計画」の具体的方策の8項目の中に障がい者スポーツの具体的な提言が盛り込まれている。その後、具体的な活動案として1995年5月に「市町村の障害者計画策定に関する指針」が出された。さらに1996年には「身体障害者スポーツ振興事業」が実施要綱の中に示された。今後障害者の高齢化、重度、重複化が進むなかで、この事業の主旨は、介護保険における介護予防の考え方と共通し、いかに“健康寿命”“スポーツ寿命”を伸ばしていくかにかかっている。



現在障がい者専用のスポーツ施設としては1974年大阪で開設された障がい者専用スポーツセンターを初めとして、未だ20か所前後に過ぎず今後の整備が望まれている。障がい者のスポーツ指導員も1966年から養成され、現在3,000名以上が全国各地で指導に当たっているが、パラリンピックの隆盛とともに障がい者スポーツでもより競技志向が強くなり、今後、さらに専門的な知識、技術をもった上級、特別上級指導員、スポーツコーチの育成が課題となってきている。

障がい者スポーツ大会で、健常者の大会と大きく異なる点は選手の障がいと程度によりクラス分類されそのクラス内での競技となる事である。従来は、スキー、水泳、陸上、車いすバスケットボール等、全ての種目で医師が Impairment をもとに評価し、判定してきたが、最近では本人の身体機能の程度、競技技術などを実際に競技場で観察しクラスを決定する機能的クラス分類に変わってきている。また種目によっても独自の細かな分類もあり、さらに国際分類、国内分類、各大会のローカル規則による分類等がある。このクラス分類により、同じ程度の障がい者が同じ土俵で公平に競技を行える。しかしその反面、個々の競技の参加者が少なくなり、逆に種目数が膨大に増える欠点がある。そのため近年では競技種目の特性に応じたクラス分けを行うための調査、検討がなされ、競技数を削減しようとする動きがある。

平成15年の静岡国体より国体でもドーピング検査が行われるようになった。またアテネオリンピックでは3,000件が、パラリンピックでは680件が検査された。障がい者は普段よりいろいろな薬を服用している頻度が高い。そのため障がい者スポーツにとってこの問題は、健常者より重要な問題である。2004年1月より世界アンチドーピング機構 WADA により、TUE (治療目的の薬剤使用)の制度が導入され、国体のみならず、一般の大会でもかなりの選手が治療として使用している薬剤を事前に申告している。健常者と同じ基準でドーピング検査を行うため、障がい者では、常に服用している薬剤を使用できなくなる可能性がある。日本では2003年6月に日本障害者スポーツ協会内にアンチドーピング部会が設置され、活動を始めている。今後、障がい者のドーピング・コントロー

ルは選手への啓発活動を含め極めて重要な問題になると考えられる。

ところで来る、2009年9月トキめき新潟国体の、4日後、10月10日から3日間開催される第9回全国障害者スポーツ大会・トキめき新潟大会は、新潟市、長岡市、新発田市、燕市で13競技が開催される予定である。障がいの種類も、聴覚、視覚、上肢、下肢の機能障がい、知的障がい等があり、これらの障がいを理解するとともに、その他に多様な基礎疾患・合併症にも注意する必要がある。また、車いす、義肢、装具、等の補装具の使用も常に考慮しながら医事・救護体制を構築していかなければならないと考えられる。

参考文献

- ・(財)日本障害者スポーツ協会編 「障害者スポーツ指導の手引き」、2004
- ・全国身体障害者総合福祉センター編 「機能訓練と楽しいスポーツ」、1988
- ・中島武範：「月間福祉12」：20-23、1996
- ・中川一彦：「障害者と楽しいスポーツ」：3-20、1993
- ・畑田和男：「障害者とスポーツ」：1-21、1996
(新潟県医師会 健康スポーツ医学委員
新潟県障害者スポーツ協会 副会長)

平成20年度 新潟医学会総会 (第641回 新潟医学会)

日時 平成20年6月21日(土) 午後3時から
会場 新潟大学医学部 有壬記念館

新潟医学会集会幹事

記

開会の辞(午後3時～3時05分)

総会議事(午後3時05分～3時25分)

特別講演1(午後3時30分～4時)

座長 内山 聖 教授 (新潟医学会会頭・医学部長)

「医療安全管理と医療情報技術」

鳥谷部 真一 教授 (医療安全管理部)

特別講演2(午後4時～5時)

座長 内山 聖 教授 (新潟医学会会頭・医学部長)

「ヒトの子 動物の子」

竹田津 実 先生 (獣医師・写真家)

閉会の辞(午後5時)

※ 新潟県医師会生涯教育講座として認定されており、出席されると日医生涯教育制度の3単位となります。